

ぎりぎり間に合った！？第21期生の卒業制作

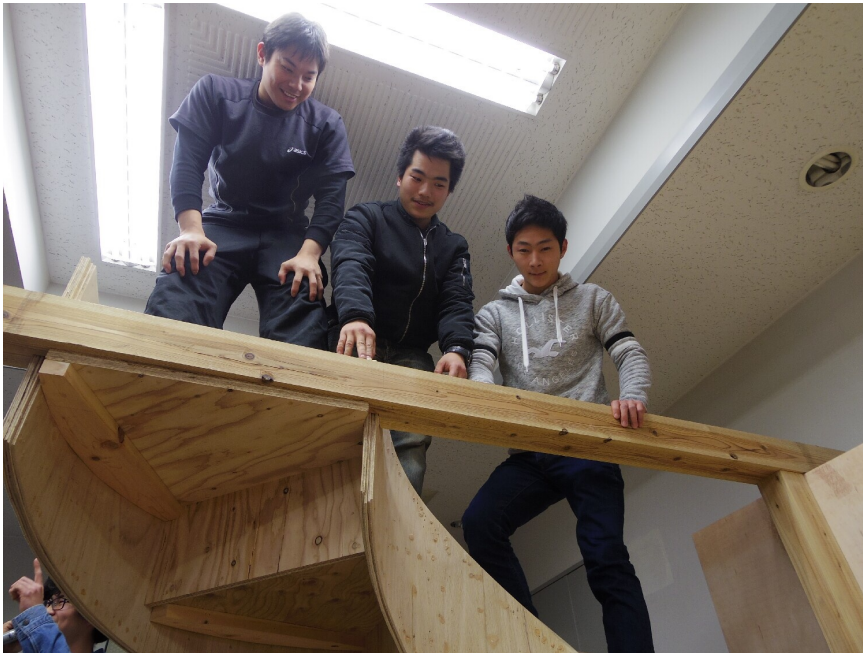
2月18日(日)卒制発表会、事業主7社16人、総勢93人参加で大盛況

カレッジ通信

発行
東京建築
カレッジ

授業見学
大歓迎！

TEL
03-
5950-1771



第21期生（2年生）の「卒業制作発表会」が2月18日（日）午後、池袋校舎で行われました。今期は卒制の進行が遅く、先生方を心配させましたが、最終盤の追い込みの結果、9つの班すべてが無事発表までたどりつくことができました。なお、今年は研修生派遣事業主が7社16人も参加、研修生の家族を含めて多数の来賓が来場し、参加総数は前年よりも5人多い93人となり、池袋校舎の3階大教室は熱気に包まれました。

実物大の制作ができるのが建築カレッジの卒制の魅力
上写真は「奇跡の階段」



桶職人の偉大さを痛感。可愛らしく反省の弁。
「木でつくるお風呂セット」

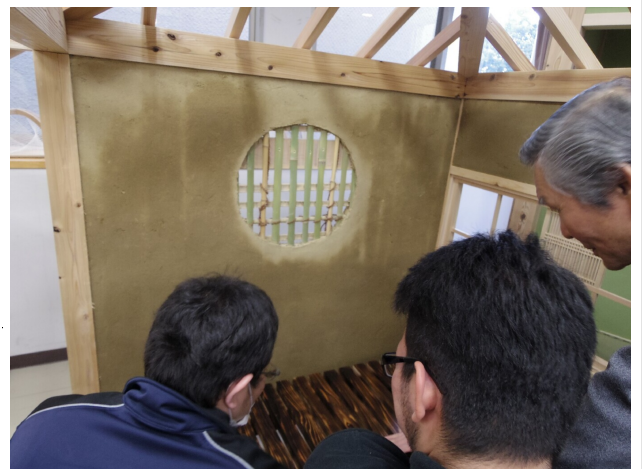
発表作品は以下の通り（発表順）。
「構造模型」（菊井謙吾）、「M邸の設計」（石川喜洋、皆川靖彦）、「自分にとってのものづくり」（高田慎太郎）、「手水（ちようず）屋」（越後則起、甲斐充、坂本康太）、「床の間」（金成拓郎、藤田悠二、三原鉄馬、和田知樹）、「洋小屋 教会建築」（岡崎匠吾、柏木大、今野善光）、「東（あずま）屋」（神山健史、杉浦泰時、西脇慎一）、「奇跡の階段」（鴨志田黎、石橋直幸、野尻悠介）、「木でつくるお風呂セット」（平澤拳）。

第23期生は25人

東京建築カレッジの第23期生（2018年4月入学生）は25人の予定です（入学定員20人）。高校新卒10人をはじめ約半数が未経験者です。10～20代で70%以上を占めますが、第2の人生で工務店起業を志す50代、大工歴20年以上の40代や日本の伝統建築に惹かれて入学を決意した30代の外国人もいて、バラエティーに富んでいます。建築の夢とやりがいを求めて、カレッジに集った仲間たちが互いに刺激あって、どのように成長していくのか、ご注目ください！なお、第24期生募集の活動は例年より早く4月上旬から開始します！

21期生の卒制作品は4月4日の入学式頃まで、池袋校舎3階で展示中です。見学歓迎！ご覧になりたい方は事前にご連絡ください。

池袋校舎3階で展示中



「東屋」は、「技能照査」実技試験に向けて学んだ棒隅木を復習しつつ、小舞（こまい）を掻（か）き、土壁に挑戦。卒制発表会の前日まで生乾きの状態で。建具屋で働くカレッジ生の細工物も突貫工事で何とか間に合いました。